

透視像



平山郁夫画伯の青の顔料

碓井 静 照

2009年12月2日に日本画壇の巨匠、日本美術院理事長、文化勲章受章者の平山郁夫画伯が逝った。またスケッチ、下絵のままの作品が多くあっただけに惜しい人をつたものだ。

平成10年1月の寒い日、平山郁夫美術館を訪ねた。いつも思うのだが平山さんの少年時代は私の生活と重なり合いつころが沢山ある。原爆の投下後で終戦後の極端に物資のない時代だった。それでも子供達は元気に遊び学んでいた。瀬戸の青い海は漁船が行きかい、尾道の街並みは歴史の雰囲気があつて、今も変わらない景色があつた。平山さんの少年時代の絵はそんな瀬戸の情景を描いている。

その昔、薬師寺の高田好胤さんが広島

に来られた折、色紙を頂いたことがきっかけで時々、薬師寺を訪れているが、薬師寺の平山さんの大唐西域壁画に描かれている仏像は重みが感じられて素晴らしい。そしてシルクロードを行くラクダの隊列の絵は感動的でとても好きだ。特に青の色の美しさは格別だ。アフガンの鉱石ラピスラズリを顔料にして描かれた夜空の青の美しさにはため息がでる。

この青、藍の顔料はラピスラズリ、瑠璃や中国広東省陽春石、菜銅、鉱山の藍銅鉱（らんどこう）であるアズライトを使っていてか言われている。私はかつて真夏に格安チケットを手に入れ、エジプト、ルクソールを訪ねたことがあるが47、まことに暑かった。水分が逃げないように長袖のシャツを2枚着て、ソリタ水飲み飲みそろそろと歩いて、ツタンカーメンの墓に行った。そんなところへも泥棒がいるというのだから困ったものだ。ところが、そこにはミイラだけがあり、あの黄金色に輝くマスクは見られ

なかった。はじめからそこには無かったのである。

ツタンカーメンのマスクや胸当ての黄金はカイロにあった。真夏のカイロは客が多くなく私はじっくりと何度も黄金のツタンカーメンを見た。黄金のどこどこに使うに使ってあるラピスラズリ青は当時金よりも貴重なものによつてあつたといふ。

広島国際会議場のロビーの一角に平山郁夫さんの大きな陶版画が飾つてある。私も平山さんと同じ高校であつたので、何かの折、小さな陶版画を買い求めた。他に安芸の小富士、似島の陶版画の小品も所有しているのだが、見ていると在りし日の平山さんの講演の様子などを思い出す。

.....
平山画伯が描いた「しまなみ海道五十三次々々ツチポイント」因島陶版画（写真撮影）本文とは直接関係ありません

